

いぬはりに

vol.

03

Creator's voice

colobockleインタビュー

記憶の糸を紡いでつなぐ
おとぎの世界

TARO MIURA PRODUCE

三浦太郎のウレタン工房

「サバンナの動物たち」

Jakuetsu research

屋外で起こっている遊具事故って？

北欧だより

季節感いっぱい！ スウェーデンの保育園の工作



colobockleインタビュー

記憶の糸を紡いでつなぐ おとぎの世界

どこかユーモラスで愛嬌たっぷり、子どもも大人もとりにしてしまう、絵本作家・コロボックル（たちもとみちこ）さんのキュートな作品。'05年出版の絵本は五冊を超え、CMのキャラクターデザイン、パンフレット、ポスターなど、活躍の場は広がる一方。ジャクエツとコラボレーションした'06年新学期用品「じゅうがB4（もりのおうち）」も、大人気です。

東京・中目黒にあるコロボックルさんのショップ兼アトリエで、作品への想いや絵本作りのエピソードを聞きました。



コロボックルさんオリジナル作品（表紙写真）
使用したジャクエツの描画素材：きらきらミズヒキセット、わくわくウレタン工作、オーラトリコット、パラエティーモールセット、カラーなみ段、エコエースペーパー、四季彩色紙など。

——イラストレーションに絵本、映像立体作品。コロボックル流モノ作りのこだわりとは？

私の創作テーマは「子ども」です。子どもたちの持つ未知の感性やエネルギーから想像力をふくらませ、作品制作に取り組んでいます。

——少女時代の思い出は？

生まれは石川県の金沢です。大阪に引越す小学六年まで金沢で過ごしました。昆虫観察が大好きな女の子。自然いっぱい環境で、いつも兄と一緒にアリのや蝶、カマキリなどいろんな虫たちとふれあっていました（笑）。

——作品の発想はどこから？

金沢で過ごした幼少期の記憶が原点。

そのころの体験や思い出をもとに空想を広げ、キャラクターやストーリーを作っています。

——作品を制作する手法は？

よく「意外」といわれますが、ほとんどの作品をコンピューターで作ります。じつはもともコンピューターはあまり好きじゃなかったんです（笑）。

大学を卒業後、映像の制作会社に就職して、アニメーションの仕事にたずさわりました。その時にコンピューターで描いたキャラクターのパーツ、目や手などを画面上で別々に分けて動かしているうちに、今の「貼り絵」のような手法ができあがったんです。今、私にとってコンピューターは筆や画材の

一部のような存在ですね。

——実際に子どもとのふれあいは？

絵本出版の記念として、ときどき幼稚園／小学生の親子対象でワークショップを開いています。たとえば、絵本「はだかの王さま」出版の時は、「みんなで王様のかんむりを作ってみよう」。子どもたちの発想は本当に自由で、いつも驚いてばかり。こちらは材料を用意して、ちょっと説明するだけで、みんなぐんぐん自分の世界を広げます。

——今回、ジャクエツの描画素材で制作した作品のテーマは？

男の子と女の子。どこの国かはわからないけれど、民族衣装のようなイメージ。デザインから制作、完成まで四

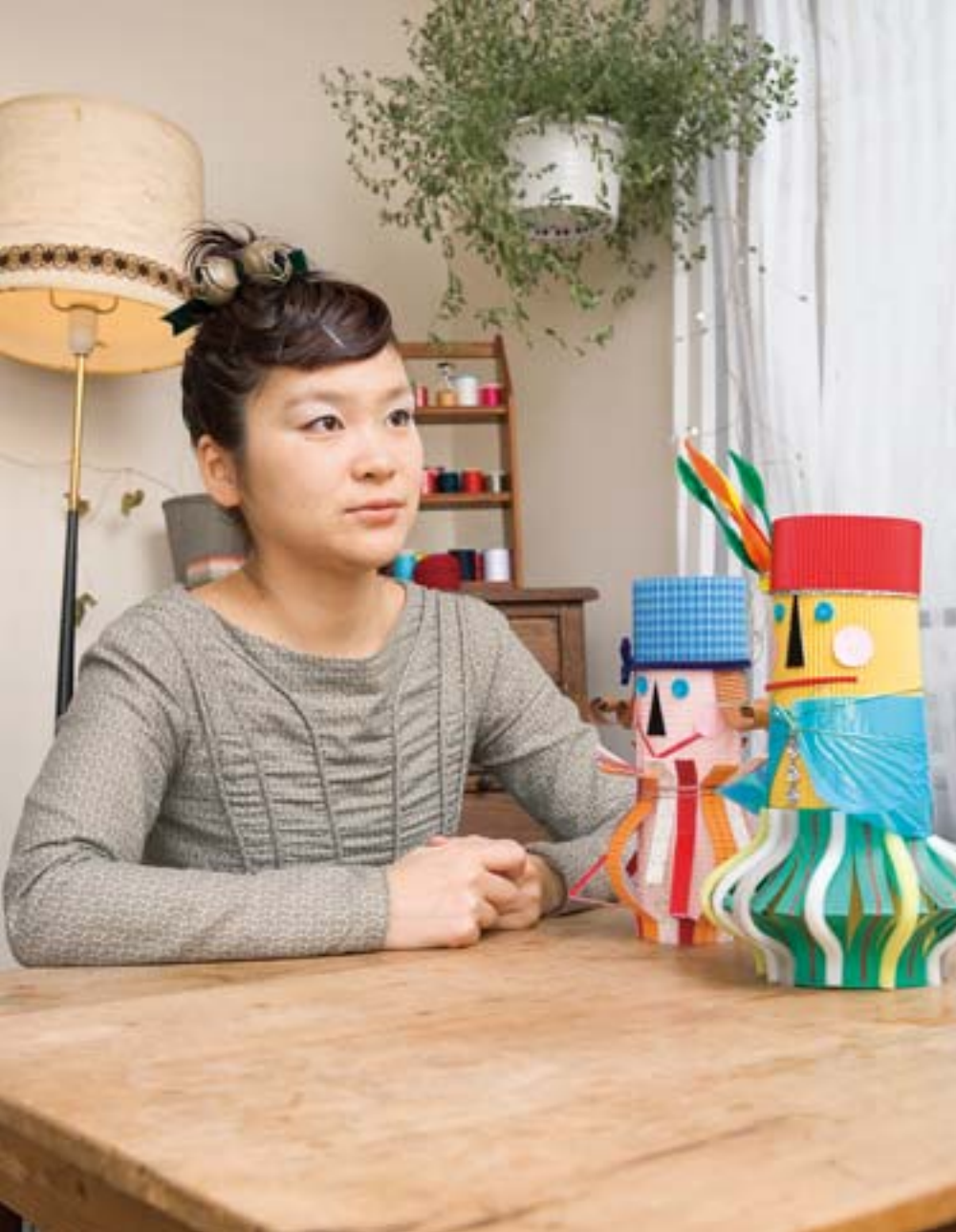
colobockle（たちもとみちこ）

1976年石川県金沢生まれ。大阪芸術大学デザイン学科視覚情報デザインコース卒業。制作会社で3年間勤務後、フリーランスとしてグラフィックデザイン、イラストレーションを中心に映像、クラフト作家としても活動中。'05年出版の絵本に『はだかの王さま』（プロンズ新社）、『てぶくろ』（プロンズ新社）、『かぞえてあそぼう1・2・3』（新風舎）『じゅくりおまめさん』（学研）ほか。大手書店やcolobockleさんのショップで開かれる親子対象のワークショップも話題。



ジャクエツとコラボレーションした'06年新学期用品「じゅうがB4（もりのおうち）」 ¥380（税込）





かわいらしくてフシギな響き“コロボックル”の名の由来は、北海道・アイヌの古い伝説から。アイヌ語で「フキの下にいる人」という意味の妖精が“コロボックル”。「想像力や創作意欲が膨らみそうでしょ?」とコロボックルさん。（“コロボックル”は作品全体のレーベルのように使っていて、絵本などは本名で活動しています。）

時間ぐらいでできました。

——制作のコツや素材の感想を教えてください。

ポイントは、素材の折り方や曲げ方を工夫して立体感を出すこと。なみ段一つとっても、ジャクエツさんの素材にはいろいろな柄が揃っていて、選び方や組み合わせでイメージが広がります。また、手にやわらかくなじむので

扱いやすく、アイデア次第で紙なのに布地のように見えるなど、質感もいいですね！

——子どもたちにも作れそう？

もちろん！最初に人形の基礎となる筒を作り、その上に好きな素材で顔や髪の毛、洋服を自分のイメージで貼ってあげればできあがり。保育園や幼稚園で、先生と園児がいっしょに作るの

も楽しそうだし、おすすめですよ。

——「いぬはりこ」を読んでいる、園の先生たちへ一言。

子ども時代の体験や記憶は、将来大人になつてからとても生きてくるものです。小さい頃からいろいろなことを体験させてあげて、そこから子どもたちそれぞれの興味あることを膨らませていってほしいと思います。



'04年秋、東京・中目黒にcolobockleのギャラリー&ショップをオープン。もとは築40年以上のボロボロの一軒家だったそう。「長い年月を経て生まれた味わいを、現代の人にも届けたい」と改装を決め、お店自体も“一つの作品”と、コロボックルさん自らペンキを塗り、床を張り替えたりして仕上げた、温もりあふれる楽しい空間。居心地のよい店内には、絵本や文具、玩具、ハンドメイド雑貨など、コロボックル作品がせいぞろい。



東京都目黒区中目黒1-1-54 1F
TEL: 03-3714-7393
オープン時間: 木～日曜12:30～20:00
(東急東横線 中目黒駅徒歩5分)



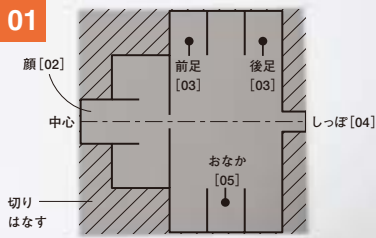
TARO MIURA PRODUCE
三浦太郎のウレタン工房

サバンナの動物たち



絵本作家でイラストレーターの三浦太郎さんの造形作品は、カンタンなのに楽しい工夫や遊び心がいっぱい。たった一枚のウレタンから、命をふきこまれたような立体の動物たちが次々に生まれます。ゾウにライオン、キリン、ワニ、トムソンガゼル。作っても飾っても楽しい、アフリカ・サバンナの楽園へようこそ！

「ゾウ」を作ってみよう!



ウレタンをカットします
ウレタンに、写真(左)を参考にして型となる線を引き、ハサミで切っていく。
線は、ウレタンを上下半分に折ったとき対称になるように。ハサミを使うときは2重に折ったまま切るより、1枚に広げたほうがきれいに切れるよ。



顔をつくります
顔となる部分を山折りし、首から鼻先の真ん中あたりを1ヶ所ホチキスで留める。



前後の足をつくります
前足、後足の部分を山折りし、それぞれのつけ根にホチキスを1ヶ所ずつ留める。



しばをつくります
ゾウを裏返し、しばを山折りにして胴体とのつけ根部分をホチキスで1ヶ所留め、しばの先から1cmぐらいのところをもう1ヶ所留める。



おなかをつくります
おなかの部分を内側に重ねあうように指で持ち、内側からホチキスで1ヶ所留める。



完成です
ひっくり返せばホラ、ゾウさんのできあがり!
ホチキスは全部で8ヶ所。これより少ないとバランスが悪いし、たくさん留めると、ふんわりしたやわらかさや表情が出ないよ。



ゾウだけでなく、どの動物も基本はすべてウレタンを半分に折って顔、前足、後足となる切り込みをいれていくところから。それぞれ要所となる部分をホチキスでパチンと留めると、強度が増して立たせた時にバランスがとりやすいし、顔付近に留めたところには絶妙なへこみやシワが生まれ、何ともいえない表情が出てきます。ウレタンのいいところはなんといっても柔軟性。クシャットとなってもすぐに元に戻るから、元気な子どもたちにも扱いやすい素材ですね。



Taro Miura
1968年愛知県生まれ。'91年大阪芸術大学卒業。絵本、広告、キャラクター制作などを中心に活動中。ジャクエツとのコラボ作品は'06年度新学期用品「あゆみ」ニューワイド(あゆみ絵本)。バスに乗って子どもたちが旅をする、新しい発想の作品は美しい絵本のような仕上がり。



■用意するもの(材料)
「わくわくウレタン工作」グレー1枚(サイズは33×33×厚さ0.5cm)、ハサミ、ホチキス



わくわくウレタン工作
¥13,650(税込)
サイズ: 33×33×厚さ0.5cm/33×33×厚さ1cm/33×16.5×厚さ0.5cm
材質: ウレタン
カラー: 赤・緑・黄・青・グレー・白
全3種類計66枚

どんなアートができるかな？ ジャクエツ描画用品カタログ

春、夏、秋、冬。1年を通して楽しむ、子どもたちの造形遊び。
先生やお友だちと一緒に、はさみでチョコチョコキ、のりでペタペタ、
どんな作品が飛び出すのかな？思わず笑顔がこぼれます。子どもたちの想像力を育む工作を、ジャクエツの描画用品がお手伝い。色も形も多彩にそろえた素材で作品の幅がぐんと広がります。



モール

クネクネまがったり、切ったり、つなげたり。
色や形もポップでユニーク。使い方は自由自在。
ほかの素材と組み合わせればさらにおもしろい！



バラエティーモールセット

¥12,600 (税込)

サイズ：40cm基尺

材質：テトロンモール・メッキモール

1分モール/11色(赤・黄・水・ピンク・オレンジ・白・緑・黄緑・茶・金・銀)各50
1束計550本 2分モール/3色(紫・水・ピンク)各50 1束計150本 3分モール/
1色(赤)各50 1束計50本 ひょうたんモール/3色(オレンジ・黄・緑)各25 1束
計75本 ツートンモール1分/2色(ピンク×藤・黄×ヒワ)各50 1束計100本 ツー
トンモール2分/1色(緑×赤)各50 1束計50本

色紙

地球にやさしいエコマーク商品。四季ごとに色分けされ、
季節感あふれる作品作りが楽しめそう。
いつの時代も子どもたちの工作には欠かせない素材です。



クラス用混色色紙(四季彩いろがみ)

¥12,600 (税込)

サイズ：15×15cm

カラー：32色(赤・黄・青・緑・紫・橙・うす水・桜・黄緑・ぼたん・藤・茶・白・ねずみ・黒・濃水・肌・桃・山吹・焦茶・オリーブ・レモン・うす緑・空・黄土・しんく・赤紫・こはく・若緑・あさぎ・エメラルドグリーン・コバルトブルー) 計5,000枚セット



カラー段ボール

片面が味わいのある波目状、裏は凹凸がないのでのり付けもカンタン。
花模様やチェックなどプリント柄も人気。
貼り絵や工作が立体的に仕上がります。

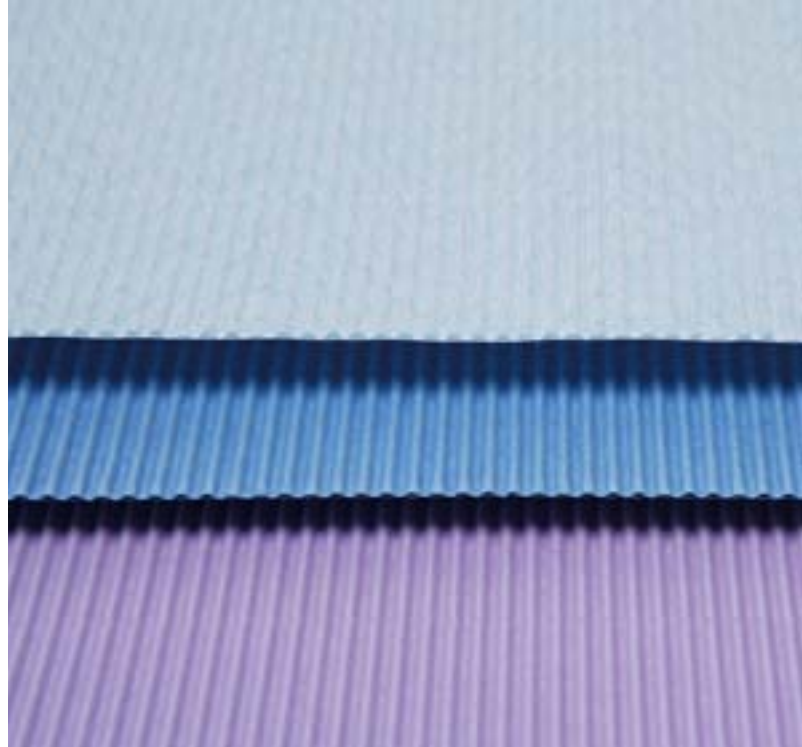


カラーなみだんセット

¥14,700 (税込)

サイズ：37×45cm×厚さ平均1.2mm

セット：16種 (斜線入り・小柄入り・和紙風等の波状カラー段ボール紙)
各5計80セット



ひも・水引き

結ぶ、巻く、貼る、編む。使い方のヒントはいろいろ。
キラキラやしましま模様の水引きを作品のアクセントにすると、
よりセンスアップした作品に！



きらきらミズヒキセット

¥8,610 (税込)

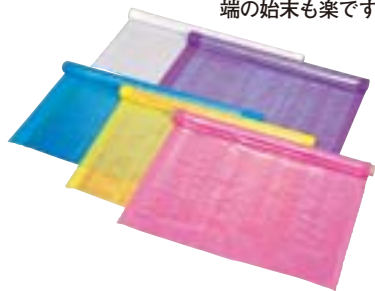
サイズ：長さ/92cm

材質：キラキラ水引・しましま水引・パール水引/木材バルブ・フィルム キラキラ
水引(金・銀)/木材バルブ・ラメ糸

内容：キラキラ水引(オレンジ・赤・ブルー・茶・緑・金・銀)各100 しましま水引
(赤・緑)各100 パール水引(白・ピンク・紫・黄・薄緑)各100 全3種類1,400本

フィルム

縫製OKなので、本格的な舞台衣装を作ったり、
室内装飾用にも便利で最適。カット面がほつれないので、
端の始末も楽です。



オーラトリコット

セット¥23,100 (税込) 単色1本¥4,725 (税込)

サイズ：幅91cm×5m巻

材質：ナイロントリコット・オーロラフィルム
カラー：5色(ピンク・紫・青・黄・白)



屋外で起こっている 遊具事故って？

前回の号では国民生活センターに寄せられた遊具事故情報をもとに各年齢・性別の占める割合を取り上げました。今回は1〜6歳児に起きた具体的な事故内容を検証します。遊具からあやまって転落し、落下した地面の硬さが原因で起きた事故、子ども同士がぶつかって起きた事故など、さまざまな要因が危険な事故を引き起こしています。

1



物的要因の事故

CASE1：すべり台
すべり台の階段を登り、いちばん高いところから後ろ向きに転落し、コンクリートに頭を強く打ち頭部を骨折。(1歳・女兒)

CASE2：ウンテイ
公園でウンテイをしていて手がすべって下に落ちる。そのときに後頭部をコンクリートの角で打ち裂傷。(4歳・女兒)

CASE3：箱型ブランコ
幼稚園の箱型ブランコに4人で乗り、こぐのを代わろうと立ち上がった子どもが転落し、ブランコの下に挟まり腕を挫傷。(5歳・男児)

2



人的要因の事故

CASE1：ジャングルジム
ジャングルジムで遊んでいたが、ワンピースを着ていたため自分の足元が見えず、高さ1.5メートルのところから落下し、鉄の棒に頭部をぶつけた。(6歳・女兒)

CASE2：すべり台
すべり台の上からすべっていて、下から上がってきた子どもとぶつかり、1メートル下に転落し頭蓋骨を骨折。(4歳・男児)

CASE3：シーソー
はだしのままシーソーで遊んでいたため、脚の甲を挟んだ。(4歳・男児)

3



その他の要因の事故

CASE1：シーソー
初めてシーソーに乗った。降りるときにバランスを崩して転落し、腕を骨折。(5歳・女兒)



遊具にひっかかって思わぬ事故になることも。動きやすく遊びに適した服装も重要。

のぼらないでね

子どもたちの笑顔を守る、安心・安全な環境づくりを



わかりやすいサインで、子どもが危険な遊び方をしないよう注意を。

具体的な遊具事故ケースをもとに調査を進めると、「遊具が設置されている環境は安全?」「遊んでいる子どもは服装は適切?」「保護者の管理・サポートは整っている?」など、改めて見直したり改善すべき要因がたくさんあることに気がつきます。

それに対し2002年に(社)日本公園施設業協会の基準案が発表され、安全対策がとられるようになりました。そこには「箱型ブランコを条件によっては使用禁止、撤去することが望ましい」など遊具自体への規制や、遊具の設計・デザイン段階からの事故防止、安全領域の確保が記載されています。

このような基準案を受け、それぞれの地域や施設、遊具メーカーなど、社会全体で遊具の製造、設置、管理に重点を置くようになり、徐々に安全な遊具環境が整われはじめています。

長年にわたり、子どもたちの安全な環境作り“に力を入れているジャクエツでは、このような屋外での遊具事故の予防策として、遊具から落下した際



専用のマットを敷くことで、安全領域を視覚的に子どもに知らせると同時に落下時のけがを軽減できる

に衝撃を和らげたり安全エリアを視覚的に知らせるゴムマットや、遊具で遊ぶときの注意を呼びかけるサイン、ジャングルジムやブランコなど遊具で子どもたちが活発に遊びまわるのに最適な服装など、さまざまな角度から安全対策商品を開発し、提案しています。

しかし、それだけでは遊具事故を完全に防ぐことはできません。環境を整えるだけでなく、遊具を扱う子ども自身の注意や、子どもを管理する側の事故への正しい知識や判断力も充分に必要とされています。

(2003年8月6日国民生活センター「危害情報からみた屋外遊具の事故」より)



◎ 北欧だより

季節感いっぱい！ スウェーデンの保育園の工作



スウェーデンの保育園では、毎日の授業の中で、季節にちなんだ図画工作を取り入れています。秋には落ち葉をひろって画用紙に貼ったり、春には野花をビニールコーティングして飾りを作ったり。雪が降る晩秋から冬を中心に、1年を通じて工作に親しんでいます。

冬の最大イベントはやつぱりクリスマス。12月20日過ぎから長いクリスマス休暇に入るので、子どもたちはその前に保育園で家族一人一人へハンドメイドのプレゼントを作りま

す。ママには、自分で色を塗り金粉をちりばめた木の額縁。パパには、粘土で形どったジンジャーブックス。どれもクリスマスツリーの飾りや部屋のデコレーションとして使える実用的なもの。このプレゼントを赤い紙と金色のリボンでラッピングし、厚紙で作った大きなサンタの靴下にそれぞれ入れておきます。休暇直前の最後の登園日、子どもは大きな靴下ごとプレゼントを家に持って帰ります。家ではこの手作りプレゼントを大事にとっておき、毎年クリスマス

の飾りつけをするたびに家族みんなで子どもの成長を実感し、あれこれ思い出したり笑ったり、楽しい時間を過ごします。

雪がたくさん降る1月～3月までは、午前は園庭で構遊び、午後は屋内で工作に取り組みます。粘土でお菓子や動物を作ったり、ダンボール箱でお城を作ったり。一番人気はやつぱりお絵描き。ビニール製のエプロンをつけたら準備OK。水彩絵の具と筆で、画用紙のカンバスにじまんの腕を振ります。絵を描いているときはどの子も真剣そのもの。おむつをしているのさえ忘れるような、小さな芸術家の眼差しです。



文・写真／岡田幸（在・スウェーデン）

た衣装や小道具を用意し、家族を園庭に招いて野外コンサートを開きます。今回のテーマは「ロック」。ダンボール紙を切り抜いて銀粉を撒いた黒いギターにゴムバンドを付け、アルミ箔を丸めたマイクも制作。いつもの園庭が、この日はさながらライブ会場のよう。お客さんが集まったら、さっそくコンサートの始まりです。先生の弾くキーボードに合わせ、自分の手作りギターとマイクで流行のロックソングやアバの懐かしい歌を熱唱しました。

また、この日には例年、子どもたちが1年間の保育園活動で作った図画工作作品の展覧会も開催されます。スウェーデンの学年末は6月なので、この祭を最後に2ヶ月間の長い夏休みに入ります。

いぬはりこ見聞録

ジャクエツの色紙ができるまで

「今日は何色を使おうかな？」赤、黄、青、緑、紫、橙。虹のように色あざやかな色紙を子どもたちの前にならべると、みんなの心はワクワク…。想像力がふくらみます！ふだん、何気なく使っている色紙はどのように製作されているのでしょうか？今回は、色紙の製作現場取材しました。



START



色紙のベースとなる原紙。巨大なロール状になってスタンバイ中。

たっぷりインキをふくんだローラーの上を流れる原紙。これでもか！というくらいインキを付着させて通ります。



いよいよ表面の印刷へ。使用するインキはジャクエツ専用の特製インキです。



“エアークナイフ”と呼ばれる装置。余分なインキを弾き飛ばし、紙に色を染み込ませ、浸透・乾燥までさせる優れもの！！



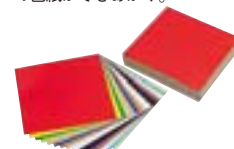
断裁場所へ移動し、まず大判にカットしてから各商品サイズごとに断裁。1枚のシートから15cm角の色紙を42枚取ることができます。



まずは色紙の反り返りを防ぐため、裏面をていねいにコーティング。



ようやく製品完成！色・つや・発色も美しい、じまんの色紙ができあがり。



工場で見ました。

Q ジャクエツの色紙はどのように作られてきたのでしょうか？

A 約50年前までは紙に刷毛で染料を塗るといった手作業だったので、とても大量生産はできません。やがて機械化が進み、量産の時代になりましたが、手作業の頃の染料に比べて印刷機用のインキは発色が悪いという新たな問題も生まれました。今までの“色”がなかなか出せない上、安全玩具の基準（STマーク）が設けられるようになってからは、色紙が色落ちすると販売を停止しなければならないという課題も。発色と色落ちの両面で優れている替わりのインキを探し、ようやく段ボール印刷に使用するインキをヒントにインキメーカーと共同で現在のインキを開発。当時は昔の色に近づけようと必死でした。

Q “紙”へのこだわりはありますか？

A 子どもが色紙をちぎったり、貼ったりすることを考え、ちぎった時に和紙のようなふんわりした毛足が出るようにこだわった紙を漉きます。市販の色紙は主に上質紙を使いますが、ジャクエツの色紙は和紙の風合いをもった紙を使うことで強度、耐折にも優れています。

Q ジャクエツの色紙作りへの姿勢を聞かせてください。

A 昔から『紙のジャクエツ』と呼ばれているように、色の発色、色のり、紙の質のどれをとっても日本一だと思います。今後も日本一の色紙を大切に作り続けます。



乾燥した紙を一気に巻き取り、再びロール状へ。湿度の変化から紙を守るためにラップをして保管します。

PRIMONI



Comfortable Design



プリモニ（ラビット・マウス・ドッグ） 1台／定価：¥198,450税込（¥189,000税別）
サイズ：本体/全長66×幅47×高さ49cm 台/全長100×幅100×高さ4cm 材質：本体/LDPE 持ち手/アルミ 台/ゴム
低年齢児も乗れるスプリング遊具です。2006年1月発売予定。

ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp

ジャクエツのマークは幼児の安全・安心をお約束する印です。